

1 霧島JC「社会人基礎力セミナー」実施報告

リカレント委員会

2019年9月8日、公益財団法人 霧島青年会議所（以降、霧島JC）において、リカレント委員会により社会人基礎力セミナーを開催しました。本案件は、2019年2月「社会人基礎力育成グランプリ全国大会」での霧島JCの重野氏との面談から始まりました。研修当日は、九州上陸台風13号と関東を襲った台風15号の間を縫った危機一髪の忘れられない研修となりました。

研修開催の背景

霧島JCは霧島国分市企業の20歳から40歳までの経営者と社員で構成する公益法人です。理事長の蔵元国明氏は就任所信表明で「率先垂範～自己の行動が未来を創る～」を宣言、その実現に必要な要素として「社会人基礎力」に着目されました。

研修企画－「率先垂範」は「社会人基礎力」の究極の姿

霧島JCは「他人に変わって欲しければ、自ら率先して変化の原動力となるべきだ」と言うガンジーの言葉を引用して、「やらされている」ではなく「やってやるぞ」という気概がチャンスを拡大すると示し、前に踏み出す「率先垂範」の一步が、住み暮らす地域の発展と未来の礎になるとして、本研修の企画にあたりました。

研修の概要－明日から使える学びと気づき

日時：2019年9月8日（日）13～18時

会場：鹿児島県霧島国分市福祉会館／参加者60名

進行：①理事長挨拶②研修の目的③講師紹介と開講

講師：リカレント委員長 芝原脩次／副委員長 石田龍夫

内容：①社会人基礎力説明（実践的意義と現場の実際）

②組織と個人の在り方 ③プロジェクト活動の原則

④起業家精神 ⑤課題解決型学習（PBL）とは

⑥グループワーク（討議・発表と評価）

⑦「スキル」「マニュアル」「手引き」提示

総括・講師所感

PBL課題（地域活性化等）に対して、全員が当事者意識をもって意欲的に取り組み、斬新な提案が多数。率先垂範の原点は起業家精神であり、自分のタスクへのpassion、会社・地元への熱い思いが、前に踏み出す力と考え抜く力を引き出し、周囲の巻き込みへ繋がればと思います。今研修が地方創生の原動力となり、全国青年会議所との連携の第一歩となることを期待します。



2 社会人基礎力協議会「2019フォーラムSep.」実施報告

リカレント委員会

リカレント委員会主催により、2019年9月18日「2019フォーラムSep。（ゲストスピーカーとの勉強会）」を開催しました。経産省出向経験者のNEC中島大輔氏をお招きし、提唱側と企業側双方の視点から「社会人基礎力」の再点検を実施しました。これは、「社会人基礎力の実像が見えない。その実践的意義が理解しにくい」という声が多く、「企業活動の立場から見た社会人基礎力」から一步踏み込んだ理解を共有化したいと考えたからです。

基調講義（要旨）

①「社会人基礎力」を声高に強調しないこと、②現場での仕事の変化と企業活動の将来像に取組むこと、③検証プロセスで実行される「対話」（目標設定・フィードバック・振り返り）の場面で、共通言語となる（活用）キーワードが「前に踏み出す力／考え抜く力／チームで働く力」であること、④「積極性」は一人称の行動力、「論理性」は自律的な思考能力、「協調性」は周囲を動かす力に深め「成長の針路」とすることなどが語られ、「社会人基礎力の実践的意義と現場の実際」は、我々が目指す方向の道標となりました。

ワークショップ

2グループ（企業組13名と大学教職員組14名）に分かれてワークショップを行いました。全員が自己紹介と今日的課題を発表し、質疑応答が活発に行われました。例えば、武威大学の「3学部横断ゼミP」、岐阜大学の「地元GP大会」開催、玉川大学「リカレント教育」企画、専修大学、埼玉県立大学等の取組紹介がありました。今後もこうした現場・現実に則した具体的議論を期待します。

フォーラム概要

日時：2019年9月18日（水）13:30～16:30

会場：専修大学神田校舎

テーマ：「企業活動における社会人基礎力の実践的意義と現場での実際」

講師：中島大輔氏（NECビジネスイノベーション企画本部長）

内容：参加企業・大学の近況と今日的課題を話し合う

参加者：大学教員5名、大学職員9名、企業13名、計27名

本年度も「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」を開催します。昨年までと同様に各地区予選大会を経て2月下旬に全国決勝大会を行います。各地区の予定については右下の表をご覧ください。詳しくは当社会人基礎力協議会のホームページ (<http://biz100.org>) グランプリのページに記載があります。

人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ

「社会人基礎力」の概念は、2006年に経済産業省より提唱されました。時が経ち「人生100年時代」や「第四次産業革命」に代表される社会的な変革が強く意識されるようになりました。2018年に開催された「我が国産業における人材力強化に向けた研究会※」では、社会的な変革を背景に、活躍し続けるためには、「働くこと」と「学ぶこと」の一体化が必要不可欠と総括され、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるための力として「人生100年時代の社会人基礎力」が新たに定義されました。

2019年度 各地区予選大会・全国決勝大会日程

地区	日程	会場
関東地区	12/1 (日)	拓殖大学 文京キャンパス
中部地区	12/8 (日)	名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス西館
近畿地区	12/8 (日)	摂南大学 寝屋川キャンパス
中国・四国地区	12/8 (日)	松山大学 樋又キャンパス
九州・沖縄地区	12/1 (日)	九州共立大学 深耕館 S101
全国決勝大会	2/18 (火)	拓殖大学 文京キャンパス

社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力発揮にあたって、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられています。
※参考「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」経済産業省（人材力研究会）H30年3月報告書

グランプリ開催の趣旨

私たち社会人基礎力育成協議会は、経済産業省がとりまとめ定義した「人生100年時代の社会人基礎力」に賛同し、大学での学びにおいて、社会人基礎力の教育の普及と、その効果的な教育方法の研究の推進を目的に、「人生100年時代の社会人基礎力」の育成に資する各大学の取り組みと、その取り組みで成長をとげた学生らの多様な実例を集わせ、これらを審査、表彰し、その実例の周知を図ります。

2019年度大会の応募ターゲットの見直し

本年度の開催ではグランプリの運営を見直し、開催趣旨に述べた社会人基礎力教育の普及には、各大学での教育方法の深化が必要であり、各大学で社会人基礎力育成への取り組みがどのように設計されているのか問います。大学によっては、その取り組みが「授業」であるのか判断に迷うこともあります。そこで応募ターゲットを広く「授業等」とします。ただし、取り組みが大学の教育の一環であることは必須です。またこれまでグランプリへの応募は困難であった大学の後期授業も今回から応募できるように、取り組みの期間を前年度の後期授業も可能としました。

応募資料の充実

応募書類に「授業等の趣旨」、「大学側の準備、関与、指導内容等」の記入を追加しました。応募資格の判断に使用するとともに、当日の審査にも活用します。社会人基礎力の成長の度合いは一律の基準では判断できないため、授業等の設計も考慮できるように様々な情報を記入していただきます。「活動時間」、「教員の事前の準備」なども問います。これらは、どのようなものが良いというものではなく、授業の背景、条件等を含めて学生の成長の度合いを総合的に評価します。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」、「専門知識の活用」、「活動を終えて改めて感じた意義」の記入項目を全て埋めることを必須としません。これは単に各項目の合計点を比較するものではないことを意味します。

社会人基礎力の育成への取り組み、および学生らの成長は多様であると考えています。幅広い応募から、著しい成長を遂げた学生たちを表彰できるとともに、彼らを生み出した良い取り組み事例が集まることを期待します。

経済産業省との共催の終了

社会人基礎力育成グランプリは、2006年度に提唱された社会人基礎力の育成を受けて、大学生をターゲットに、その目標として、2007年度より昨年度まで経済産業省が共催し運営されてきました。当協議会と経済産業省と協議の結果、経済産業省の共催は終了することにしました。人生100年時代の社会人基礎力は、大学生だけに限らず、あらゆる世代に広げるためとのことでした。経済産業省とは当協議会のオブザーバーとして、協力関係を継続します。なお共催の終了に伴い、グランプリへの経済産業大臣賞の授与は行われなことをご了承ください。

4 株式会社市進ラボにて「社会人基礎力」研修開催

2019年4月20日、株式会社市進ラボにおいて、研究委員会により「それぞれのライフステージで求められる社会人基礎力」をテーマに社会人基礎力研修を開催しました。同グループ会社新入社員を含む23名が参加しました。「社会人基礎力」の基礎概念から始まり、グループワークと続き、各自がすぐに出来る具体的な行動を宣言して研修を終えました。事後アンケートでは、「社会人基礎力」としての自分の強みと課題、そして今すぐ実行できる行動が明確になった、との感想をいただきました。社会人基礎力協議会では、今後も「社会人基礎力」をテーマとした研修を実施してまいります。

研修の概要

- 日時：2019年4月20日（土）15～17時
会場：市進ビル「ナナカラクロス本八幡」/参加者23名
講師：研究委員長 長尾素子
内容：①社会人基礎力の概要
②ケーススタディ
③課題とグループディスカッション
④発表
⑤ふりかえり





Profile

岐阜大学 教育推進・学生支援機構キャリア支援部門所属。岐阜県生まれ。学生のキャリア形成とボランティア活動に取り組む。2017年より2年連続で社会人基礎力育成グランプリ中部地区大会に出場。本件に関する問い合わせは hakumura@gifu-u.ac.jp まで。

2019年9月8日(日)、岐阜大学サテライトキャンパス(岐阜県岐阜市)で「輝け！キャリアコン2019☆岐大」(主催：岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門、後援：岐阜県、岐阜県学生就職連絡協議会、以下「キャリアコン」と記す)を開催しました。これは、若干の違いがあるものの、毎年開催される「社会人基礎力育成グランプリ」(一般社団法人社会人基礎力協議会、以下「グランプリ」)の岐阜県版という位置づけです。

「キャリアコン」開催の背景とは

「キャリアコン」開催の背景には、2つの大きな理由がありました。1つは「グランプリ」は、その地区大会に岐阜県からの参加がほとんどなく、岐阜県内ではあまり広く知られていないため(9月開催の「キャリアコン」をステップに12月開催の「グランプリ」中部地区大会に参加を促す)、そして2つめに大学をはじめとする高等教育機関、そして日本語学校や障害者就労移行支援事業所など、今後就労を見据える学生の社会貢献活動を披露し学び合い、同時に社会人基礎力を育む「場」を設けたいと考えたためです。岐阜県という地域の特性に着目した学生の活動は非常に多く、その活動を通じた学生の成長は目覚ましいものがあります。「キャリアコン」はそうした活動を「社会人基礎力」という物差しで客観的に評価しようとするものであり、今年度岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門が初めて企画、県内各所(計60校)に参加を呼びかけました。

社会人基礎力育成グランプリの運営を参考に企画

開催要項を作成するにあたっては、「グランプリ」の要項を参考にしました。発表時間や形式は「グランプリ」を踏襲しポスターも作成、2019年5月に参加を募りました。6月末に参加を締め切り、6校8チームの参加(大学3校4チーム、専門学校3校4チーム)を受け付けました。8月末に発表データ(PPT)の提出を受けると同時に審査員の選定に入りました。趣旨説明をし、最終的にキャリア支援部門長(横田康成教授)を筆頭にマイナビ株式会社や一般社団法人岐阜県経営者協会、そしてNPO法人G-NETより計4名に依頼をしました。

発表会当日の様子は岐阜新聞にも掲載

当日は発表者を含め50名超が来場しました。発表内容は非常に多彩で審査員からの質疑応答にも熱が入りました。最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、そして奨励賞の授与を執り行い、会は無事終了。その模様は2019年9月10日付岐阜新聞に記事掲載されました。

今後に向けた課題

来場者向けにアンケートを実施し、現在はその振り返りを行っています。振り返ってみると反省すべき点が見えてきます。大きくは2点あります。一つは岐阜県内の企業関係者にもっと声がけて観覧客を募り学生との交流を促すことであり、もう一つは学生交流のための時間をもっと設けるべきであった、などです。次回開催時にはこの経験を活かしていきたいと考えています。また岐阜県でのこうした取り組みが他県に波及し、社会人基礎力にさらに注意を向ける機関が増えることを願ってやみません。

5 若手社会人が自信がある「社会人基礎力」能力要素とは

研究委員会

研究委員会では、副委員長の山崎紅(人材開発コンサルタント)が「若手社会人就業意識ギャップ調査報告書2019」(一般社団法人日本経営協会)のデータ分析を担当、そのなかで、若手社会人(大学・大学院・専門学校などを卒業し初めて就職して2年半～3年半経過した現在正規雇用者として働いている方、有効回答者数700名)の社会人基礎力に対する意識に関する設問を加え、現状分析を行いましたので、その部分について参考までにご紹介いたします。

前へ踏み出す力は自信がない若手社会人

社会人基礎力に関する設問内容は、社会人基礎力12の能力要素+語学力について、大いに自信がある/まあ自信がある/あまり自信がない/自信がない/わからない、の5段階で自己評価するものです。結果は、表1のとおりです。

自信がある能力は「傾聴力」「情況把握力」「規律性」であり、いずれもチームで働く力に分類される能力要素です。上司や先輩の話をよく聞き、組織のルールを守り、周囲の状況に合わせて柔軟に対応するというフォローシップの高さが表れました。一方、前へ踏み出す力に分類される「主体性」「働きかけ力」は半数以上が「自信がない」「あまり自信がない」と回答しています。さらに、「創造力」「発信力」の低さも目立ちます。指示どおりに実行することはできても、自分で新しいことを考えたり、自分から行動を起こしたり、周囲に働きかけて巻き込んでいくことは自信がないという受け身な様子が見てとれます。

自ら考え行動する人を育む

自ら考え行動する自立・自律した働き方が求められる現代、このような指示待ち人間、受け身なマインドでは、変化が激しいビジネス環境のスピードについていけません。この調査結果からも、社会人基礎力強化のしゅみはまだ十分ではないことがわかります。産学官連携で引き続き取り組んで参ります。

表1. 若手社会人が自信がある能力 (n=700)

	大いに自信がある	まあまあ自信がある	あまり自信がない	自信がない	わからない
主体性	9.9	35.0	33.0	16.4	5.7
働きかけ力	6.1	36.1	34.0	18.3	5.4
実行力	11.0	41.3	31.4	12.6	3.7
課題発見力	8.7	37.3	35.4	14.1	4.4
計画力	9.7	39.7	31.9	14.9	3.9
創造力	8.0	27.1	37.6	22.0	5.3
発信力	5.6	26.7	41.7	21.4	4.6
傾聴力	19.7	44.9	21.0	9.7	4.7
柔軟性	14.3	44.0	24.7	13.3	3.7
情況把握力	14.1	46.1	27.3	8.7	3.7
規律性	13.6	46.6	25.4	9.1	5.3
ストレスコントロール力	10.7	30.3	29.4	23.7	5.9
語学力	5.9	18.1	35.3	32.7	8.0

出典：「若手社会人就業意識ギャップ調査報告書2019」(一般社団法人日本経営協会)

弊社が「社会人基礎力」に出会ったのは、内定者研修や新入社員研修のサービス構築に力を入れた2008年頃。当時リーダーシップやマネジメント力など中堅社員や管理職に必要とされる能力については様々な指標が提唱されていましたが、新社会人に必要とされる基礎的な能力について私が納得いく指標はありませんでした。そんな中、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」に出会い、その分かりやすさとまとまりの良さに魅力を感じ、早速アセスメントの開発や研修のプランニングなど、弊社の「社会人基礎力」育成への取り組みが始まりました。以降、様々な企業や教育機関でサービスを提供してきましたが、現在一つの想いに行きついています。それは、『「社会人基礎力」育成の第一歩は、一人ひとりが持つ素晴らしさを「発揮」してもらうこと』ということです。

「発揮」というアプローチがキーポイント

人は生まれながら豊かな個性を持っています。強みと弱みは表裏一体です。そして、日々様々なモノ・コト・ヒトに刺激を受け、感じ、考え、選択し、行動しています。しかし、残念ながら「本来の自分を発揮できていない人」や「自分の素晴らしさに気付かないでいる人」も多いと感じました。そこで、研修やセミナーの受講生に対して『「社会人基礎力」を成長させましょう』という言い方をやめ（必要に応じて言いますが）、「皆さんが持っている『社会人基礎力』を発揮してください」と言うようにしています。

それは、成長というアプローチより、発揮というアプローチの方が、育成の初期段階では無理なく自然だと考えているからです。成長は、学習から定着まで手間と時間が掛かります。しかし発揮は、強みを明確にして表に出してもらいだけです。無理なく自然だからこそ、定着も早いと感じています。

安心して発揮できる環境作り

もちろん、言うだけでは発揮してくれません。まず関わる私たちが、彼らの生きる力や可能性を本人以上に信じる。そして、彼らが「安心して発揮できる環境」「発揮したいと思える環境」を整えることが大切だと考えています。その環境作りに大切なことは、①目的や価値の明確化 ②情報共有 ③役割の明確化 ④自身の強みや価値観の明確化 ⑤周囲との関係性 ⑥適切なインプットとアウトプット ⑦ティーチングとコーチングの使い分け そして⑧自由で挑戦的な組織風土の醸成 などがあると考えています。ここはまだ上手く整理できていませんので、皆さんのご意見もお聞きできれば嬉しいです。

一人ひとりの輝きを目指して

最後になりますが、弊社の経営理念は「人を輝かせる会社でありたい」です。輝きは内からしか生まれません。このコラムが、皆さまが関わる一人ひとりの輝きに繋がれば嬉しく思います。



Profile

企業における人材育成や組織活性のコンサルティングを提供する傍ら、企業や教育機関でアセスメントを利用した「社会人基礎力」の評価・育成を行う。
趣味は、息子とのサッカー、キャンプ、海水魚の飼育。
東京中小企業家同友会 副代表理事

6 研究所員募集

リカレント委員会

リカレント委員会では、社会人基礎力を実践的視点から深め、その有効性を高めることを目的に、「実践・社会人基礎力研究所」を開設しました。それに伴い、研究所員を随時募集中です。人生100年時代の社会人基礎力を「仕事（就労）と学び」を繰り返す、スパイラル的「リカレント教育」を推進し、企業人材育成と個人の成長に寄与したいと考えます。下記要項を参照いただき、「企業・大学」「個人」のご応募をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

目的	現役・OBの実務経験者が基礎力を実践的視点から分析・深耕し高める。
テーマ	①「実践・社会人基礎力」を深める ②女性による「女性活躍推進」研究
募集人数	研究員：一期生20～30名（予定）／現役・OB&OG 男女年齢不問。
登録費用	①法人5万円（枠2名）②一般3万円の寄付協賛金を充当します。
選考基準	「職務経歴」確認。目的を理解し、意欲的な継続的活動が出来る人。
活動日程	（第一期）：2019年4月～2020年3月＜1年間＞
研究活動	定例&随時研究会開催。（原則チーム&個人活動とします）
成果発表	中間報告会（9月）／最終発表会（3月）／「研究報告書」刊行・公開。
名刺肩書使用	「リカレント委員会・実践社会人基礎力研究所」研究員。 実務経験職歴・研究テーマに応じて「特命研究員」「エグゼクティブ研究員」等使用。

お問合せ・お申込はこちら

メール申込

y.shibahara@nifty.com

問合せ先

090-3477-7277（石田）

090-7227-2458（芝原）

7 ホームページリニューアルのお知らせ

事務局

社会人基礎力協議会ホームページをリニューアルいたしました。今回のリニューアルでは、パソコンの他にスマートフォンやタブレットからアクセスした際にも、快適にご利用いただけるホームページに作成しております。

引き続き、皆様使いやすいサイトを目指して、内容を充実して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

<http://biz100.org/>



編集後記



社会人基礎力協議会News第2号はいかがでしたか？ 一般社団法人社会人基礎力協議会発足以来1年以上が経ち、各委員会の活動も活発になって参りました。今後も各種イベント・研修報告、研究成果などをお届けします。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望などお待ちしております。（担当：研究委員会副委員長 人材開発コンサルタント 山崎 紅）